

ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)		科目コード	CC3091
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	清水 冬樹

科目の概要

■科目の内容

実践場面を事例として取り上げつつ、ソーシャルワークに関わる基本的なことについて、主に以下の点に着目しながら学ぶ

- 1) ソーシャルワークを展開する上で直面するジレンマ
- 2) ソーシャルワークの価値と倫理
- 3) ソーシャルワークの実践のあり様
- 4) ワーカーとクライアントの関係性
- 5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性、それぞれのレベルへの介入

■到達目標

- 1) ソーシャルワークにおけるジレンマとは何か説明できる
- 2) ソーシャルワークの価値と倫理について説明できる
- 3) 事例からソーシャルワークの実際について説明できる
- 4) ワーカーとクライアントの関係性の捉え方について理解できる
- 5) 事例を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロレベルを一貫して捉えつつ、ソーシャルワークの実践のあり方を説明することができる

■教科書（「ソーシャルワークの基盤と専門職」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目]11ソーシャルワークの基盤と専門職 (共通・社会専門)』、中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワークの基盤と専門職」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- 1) 東洋大学福祉社会開発研究センター編著『社会を変えるソーシャルワーク 制度の枠組みを越え社会正義を実現するために』ミネルヴァ書房、2020年
- 2) 稲沢公一、岩崎晋也『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣、2019年
- 3) 稲沢公一『援助関係論入門』有斐閣、2017年
- 4) フレデリック・G・リーマー(2001)『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規出版、2001年
- 5) 日本社会福祉士会編『改定社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック—』中央法規出版、2009年
- 6) 久保紘章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005年
- 7) 太田義弘・秋山薊二編著、中村佐織・齊藤順子・谷口泰史・佐野真紀共著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館、2002年
- 8) 山辺朗子著『ジェネラリスト・ソーシャルワークにもとづく社会福祉のスーパービジョン：その理論と実践（新・MINERVA 福祉ライブラリー）』ミネルヴァ書房、2015年

■履修登録条件

この科目は、「ソーシャルワークの基盤と専門職」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録するのみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

今日、社会福祉が対象として捉えてきた人たちへの支援について、社会的な同意や理解が得られない場面に遭遇することがあります。私たちの問題として捉え、社会的な解決を目指すために、ソーシャルワークではどのようなことが求められるのか、事例等を用いて一緒に考えていきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	専門職倫理と倫理的ジレンマ【担当教員配付資料】	事例を用いてジレンマについて学びます
2	ソーシャルワークの価値と倫理【担当教員配付資料】	ソーシャルワークの価値と倫理について、事例を用いながら学びます
3	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象【第7章第1節】	事例を用いつつ、ミクロ・メゾ・マクロの意味やシステム理論について学びます
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開【第7章第2節】	事例を用いつつ、ミクロ・メゾ・マクロの捉え方について学びます
5	援助関係への視点【担当教員配付資料】	援助関係のパラドックスについて学びます
6	総合的かつ包括的な支援の意義【第8章第1～2節】	事例を用いて、総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を学びます

回数	テーマ	内容
7	多職種連携のあり方【第8章第3節】	地域共生社会の実現における市民社会との連携に関する課題について学びます
8	コロナ禍のソーシャルワーク【担当教員配付資料】	covid-19におけるソーシャルワークの事例から、今後ソーシャルワーカーに求められる資質について学びます
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

スライドおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリングの講義内容に記載してあるキーワードについて、事前に学ぶようにしてください。また、様々な媒体を手がかりにソーシャルワーカーの実践について理解して、スクーリングに臨むようにしてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

配付資料やテキストを見直しつつ、自筆ノートの作成をするようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲【第6章第1節】	ソーシャルワーカーが専門職として位置づく上で、今日までどのような議論がなされてきたのかを理解する。 キーワード：フレックスナー、グリーンウッド、秋山智久、専門職の条件、仲村優一、「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」	ソーシャルワーカーが専門職であるための条件について、その歴史に着目しつつ整理してください。
2	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲【第6章第1節】	ソーシャルワーカーの独自性と専門性について、生活という観点から理解する。 キーワード：生活者、職能団体	社会生活支援・地域支援の専門性とその必要性について、身近な事例や福祉系の特集番組などを参考に理解を深めてください。職能団体については、HP等を検索してみてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	社会福祉士の職域と役割 【第6章第2節】	社会福祉士が活躍する様々な領域について、その範囲が拡大した背景も踏まえて理解する。 キーワード：児童福祉法、介護保険法、障害者総合支援法、生活困窮者自立支援法、MSW、SSW、地域生活定着支援センター、独立型社会福祉士	社会福祉士が働く職域の拡大していく一方で、限定的なサービスが構築されてきていることが、近年の社会福祉サービスの特徴です。この点を自身の言葉で説明ができるようになると思います。
4	多様な組織・機関・団体における専門職 【第6章第3節】	ソーシャルワーカーが関わるのが想定される社会資源について理解する。 キーワード：ハローワーク、特定非営利活動法人、福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、配偶者暴力相談支援センター、社会福祉協議会、地域包括支援センター、国際NGO	ソーシャルワークの実践を担うさまざまな職種や職場、他職種などを具体的に調べてみてください。その際、都市部と地方の違いについても整理できると良いと思います。
5	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 その1 【第7章第1節】	マイクロ、メゾ、マクロの意味について理解する。 キーワード：マイクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	他の対人援助専門職とソーシャルワークが対象とする範囲を比較しながら理解を深めてください。
6	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 その2 【第7章第1節】	マイクロ、メゾ・マクロレベルの相互関係性について、概念図や事例を探しながら理解する。 キーワード：システム	マイクロ、メゾ・マクロレベルの相互関係性を福祉系の番組などを参考しながら考えてみてください。
7	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その1 【第7章第2節】	マイクロレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：診断主義、機能主義、環境モデル、物語モデル	ソーシャルワークにおけるクライアントの生活課題の捉え方について、キーワードを手がかりとしながら整理してください。
8	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その2 【第7章第2節】	メゾレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：家族、地域、コミュニティ、学校、職場、組織	メゾレベルにおけるソーシャルワークの展開について、キーワードを手がかりとしながら整理してください。
9	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その3 【第7章第2節】	ソーシャルワークのグローバル定義を踏まえて、マクロレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：社会変革、社会開発、社会的結束、エンパワメントの解放と促進	ソーシャルアクションの事例を探しながら理解を深めてください。
10	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 その1 【第8章第1節】	これまでの社会福祉の議論で着目されてきた児童福祉や障害者福祉といった縦割りによる理解ではなく、各領域を貫く実践の視点について学ぶ。 キーワード：ジェネラリスト	テキストに記載されている事例を手がかりに、生活問題はどのように発生したり発見されたりしているのか考えてみてください。普遍的な生活課題の捉え方が見えてくると思います。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 その2 【第8章第1節】	ジェネラリストソーシャルワークの変遷について踏まえた上で、共通基盤としてとしてのソーシャルワークの価値と倫理、知識、技術の体型について学ぶ。 キーワード：ケースワーク、グループワーク、コミュニティ オルガニゼーション	ジェネラリストソーシャルワークの変遷について確実に理解できるようにしておいてください。
12	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 その1 【第8章第2節】	地域共生社会の実現に関わる資源の捉え方について学ぶ。 キーワード：フォーマルサポート、インフォーマルサポート、資源開発	地域共生社会の実現について、導入の経過や課題について確実に理解・説明できるようにしておいてください。
13	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 その2 【第8章第2節】	多機関・多職種の連携、協働による包括的支援体制の構築のあり様について理解する。 キーワード：コンボイモデル、コミュニティディベロップメント	ソーシャルサポートネットワークについて、まずは概念としてしっかりと理解できるようにしておいてください。また、テキストにはフードバンクについての記載があります。ぜひ、どのような実践なのか、実施団体のHP等を見ながら考えてみてください。
14	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 その1 【第8章第3節】	多職種連携、チームアプローチの意義と内容について理解をする。 キーワード：協働、共同、協同	キーワードに挙げた3つの言葉の意味について必ず理解しておいてください。また、テキスト p.290から記載がある事例を読んだ上で、多職種をつなぐ視点について考えてみましょう。
15	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 その2 【第8章第3節】	多職種連携・多機関連携によるソーシャルアクションについて、事例を手がかりに理解をする。 キーワード：ソーシャルアクション、情報の共有	テキスト p.294にある表8-3の意味について、具体的に説明できるようにしておきましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	①ジェネラリストソーシャルワークについて、その変遷を1,000字以内で論じなさい。 ②地域共生社会の課題とソーシャルワーカーの立ち位置について、あなたの考えを1,000字以内で論じなさい。 【①②両方必要】

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートの書き方に関する一般的なマナーやルールをしっかりと守って記述してください。特に引用や参考にした文献等は必ず記載しましょう。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

- ①使用するテキストには、ソーシャルワークの変遷に関する記述があります。そこも活用しながら取り組んでください。
- ②地域共生社会の現状と課題についていくつか調べた上、特に課題について整理してみましょう。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目の内容、ポイントを十分に理解できているか。
- 2) 出題の内容を理解し、設題の意図をきちんと踏まえ、論じられているか。
- 3) 単なる説明ではなく、自身の意見や考えを十分に示すことができているか。
- 4) 適切な文章表現であり、一定量以上の分量でまとめられているか。